

施策マネジメントシート1(23年度目標達成度評価)

作成日 平成 24 年 5 月 30 日
更新日 平成 24 年 7 月 11 日

総合計画体系	政策No.	4	政策名	みんなで元気に笑顔あふれるまちづくり	施策統括部	教育部	部長名	大島 泉
	施策No.	21	施策名	生涯学習の推進	施策主管課	生涯学習課	課長名	上原 哲也
					関係課	まちづくり戦略室、市民課、学校教育課、人権啓発教育課、会計課、監査委員事務局		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等
市民、市外からの通勤・通学者

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)
生涯にわたって目標・目的を持ち、学習を行なっている



成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

市民意識調査により把握
設問 : 「あなたは目標・目的を持って実際に学習を行なっていますか？」
選択肢: ①週に2回以上行なっている、②週に1回行なっている、③月に2、3回行なっている
④月に1回行なっている ⑤ほとんど行なっていない
※「学習」とは、学校や地域社会の中で行われる組織的な学習活動だけでなく、個人的な文化活動、読書活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動なども含みます。
(目標・目的を持って実際に学習を行っている人の割合＝①～④を回答した人数／全回答者数)

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 人口	人
B	
C	
④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 目標・目的を持って実際に学習を行っている人の割合	%
B	
C	
D	
E	
F	

2 指標等の推移

指標名				単位	数値区分	21年度現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
対象指標	A	人	見込み値				56,281	56,829	57,377	57,925	58,474
			実績値				56,638				
	B		見込み値								
			実績値								
C		見込み値									
		実績値									
成果指標	A	%	成り行き値				34.6	34.6	34.6	34.6	34.6
			目標値				37.0	38.2	39.4	40.6	42.0
			実績値		34.6	34.9					
	B		成り行き値								
			目標値								
			実績値								
	C		成り行き値								
			目標値								
			実績値								
	D		成り行き値								
			目標値								
			実績値								
	E		成り行き値								
			目標値								
			実績値								
	F		成り行き値								
			目標値								
			実績値								
事務事業数				本数		58	50	48	48	47	
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円		1,435	1,450	1,116	816	816	
			都道府県支出金	千円		1,769	0	884	821	821	
			地方債	千円		0	0	0	0	0	
			その他	千円		20,740	12,373	18,256	618	618	
			繰入金	千円		0	0	0	0	0	
			一般財源	千円		228,917	340,342	208,460	214,930	222,817	
			事業費計 (A)	千円		252,861	354,165	228,716	217,185	225,072	
			(A)のうち指定経費	千円		60,139	61,547	45,658	30,126	30,126	
			(A)のうち時間外、特殊勤務手当	千円		456	271	428	428	428	
	人件費		延べ業務時間	時間		21,754	21,069	20,737	20,567	20,567	
			人件費計 (B)	千円		87,811	86,791	85,423	84,724	84,724	
トータルコスト(A)+(B)				千円		340,672	440,956	314,139	301,909	309,796	
基本計画期間における施策の目標設定とその根拠 (水準の理由と前提条件)						A: 目標、目的を持って実際に学習を行なっている人の割合について、成り行き値は、高齢化がさらに進むことや(余暇を利用して学習やスポーツに親しんだり、ボランティア活動に参加する人が増えると予想される)、経済状況が不安定なことを考慮して、平成21年度の実績値である34.6%で平成27年度まで推移するとして設定した。目標値は、今後、幅広い市民の意見を聴きながら「生涯学習のまち(都市)宣言」の検討を進め、さらに啓発活動を行なうこと、主催講座や市民大学の充実、図書館活動の広報や啓発を行ない、利用の機会提供に努めること、主催講座、自主講座などの周知を図り、団体参加を促すこと、人材を発掘し、人材の活用を進めるなどの取り組みをとおして学習に取り組みたいと考える人を増やすことで、平成22年度の第1期の学習とスポーツを含めた目標値である42%を、平成27年度の目標値として設定した。					
基本計画期間における施策の方針						①市民が自ら生涯学習に取り組みやすい環境づくりにつとめる。 ② 豊かな心をもつ人を育み、生きがいを見つけられる生涯学習の推進を図る。					

施策マネジメントシート2(23年度目標達成度評価)

生涯学習の推進

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

【1】この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

- ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
- ・市民は、市主催または地域主催等の色々な事業に参加したり、指導者として関わる。
 - ・学習意欲を持ち、自主的に取り組む。
 - ・地域では、文化活動等や各種講座を開催する。
 - ・団体は、自主的に活動を行なう。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・市民の多様なニーズを捉えた各種講座等の開催と支援。
- ・各種施設の計画的な整備と管理・運営の実施。

【2】施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成27年度を見越して)

- ・高齢化がさらにすすむことで、学習に親しんだり、ボランティア活動に参加する人が増えると予想される。
- ・各種施設の老朽化がすすみ、維持管理費の増加が予想される。
- ・今後、幅広い市民の意見を聴きながら「生涯学習のまち(都市)宣言」の検討を進めることで、生涯学習に関心を持つ市民が増えると予想される。
- ・社会情勢の変化に伴い、多様な状況に応じた図書の整備がさらに必要になると予想される。

【3】この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・団体から、施設利用規定(申請者側の予約辞退に伴う使用料返還関係)の見直しを行って欲しいとの要望がある。

【平成23年度の施策評価(22年度振り返り)における総合政策審議会意見】

1. 市民が目標・目的をもって取り組めるような方策の検討が必要である。

【平成23年度の施策評価(22年度振り返り)における議会意見】

1. 生涯学習の更なる推進が必要である。

4 施策の評価

【1】施策の目標達成度(23年度目標と実績との比較)

A → ×【 目標・目的を持って実際に学習を行っている人の割合 】

： 目標値37.0%に対し実績値34.9%であり、達成度は94.3%であった。

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

前年度より実績値は上がっているが、目標には達しなかった。毎年不特定の市民を対象に実施しているアンケート結果から考察すると、現状維持で推移していると考えられる。年代によっては、生涯学習の取り組みまで至っていないことが考えられる。

※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(－5%程度) ×:目標を未達成

【2】施策の振り返り(施策の方針、経営方針の達成度等)

(1) 平成23年度経営方針にある、①「市民の意見を聞きながら「生涯学習のまち(都市)宣言」の検討を進める。」については、宣言を行うに足るものとして何が必要なのか、市の事業の中でそれを満たしているものがあるのか、近隣の自治体の状況や市民意識の高揚度を見守りながら慎重に検討を進めることとした。

②より多くの市民が講座に参加するように、各種講座の啓発活動に努める。」については、市民のニーズにあった講座の開催を行なっている。

(2) 事務事業貢献度評価の結果では、平成23年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、生涯学習講座開催事業と合志市市民大学事業があげられ、貢献した事務事業には生涯学習出前講座事業と図書館蔵書貸出返却事業があげられた。

【3】 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- ・各種施設、設備の老朽化に伴う計画的な整備の推進
- ・生涯学習のまち(都市)宣言」の検討と生涯学習の推進
- ・社会情勢の変化を見極め、図書の本数の整備
- ・図書館を活用した、「夏休み自主学習支援事業」の検証と取り組み方針

5 施策の23年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成24年7月11日)

- ・引き続き生涯学習に取り組みやすい環境づくりに努めていく必要がある。
- ・「生涯学習のまち(都市)宣言」については早急に結論を出す必要がある。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成24年7月25日、8月3日、8日まとめ)

- ・生涯学習推進のための環境づくりと、指導者の育成を図ること。

③ 議会の行政評価における指摘事項(平成24年9月21日)

- ・市民のニーズにあった生涯学習講座の充実。
- ・図書館の統合と有効活用。(電子書籍の導入)

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成25年度合志市経営方針(平成24年10月9日)

1. 生涯学習講座を積極的に開催し、市民の交流や健康づくりを推進するとともに、学習の成果を地域や学校に還元する仕組みを構築する。
2. 老朽化した生涯学習施設の計画的な改修に努める。

基本事業名		66 学習の啓発	基本事業担当課		生涯学習課
対象		学習に取り組んでいない市民	意図		・学習に取り組むことの必要性を認識できる ・施設や学習内容を知ることができる

成果指標名		単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A	学習に取り組んでいないが今後取り組んでみたいと思う市民の割合	%	(成り行き値) 目標値		(57.4) 58.0	(58.1) 60.0	(58.8) 62.0	(59.5) 64.0	(60.0) 66.0
			実績値	56.0	55.5				
B			(成り行き値) 目標値						
			実績値						
C			(成り行き値) 目標値						
			実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)
A: 今後、幅広い市民の意見を聴きながら「生涯学習のまち(都市)宣言」の検討をすすめることや、学習に取り組みたいと考える人を増やすことにより、さらに啓発活動を行なうことで、平成21年度実績値に10%上乗せし、過去最高値の65.7%を上回る66%を平成27年度目標値として設定した。

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題
A: 主催講座については、市民のニーズ把握に努めさまざまな講座への取り組みを行なっているところである。「学習に取り組んでみたい」から「取り組んでいる」へ移行したものと思われる。今後、講座、教室の実施に当たっては、費用対効果、公正公平性に留意し、市民のための講座として啓発に努める。

基本事業名		67 学習への参加機会の提供	基本事業担当課		生涯学習課
対象		市民	意図		学習に参加する機会がある

成果指標名		単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A	学習に親しむ機会があると思う市民の割合	%	(成り行き値) 目標値		(48.1) 49.3	(48.1) 49.9	(48.1) 50.5	(48.1) 51.1	(48.1) 52.0
			実績値	48.1	46.1				
B	図書館を利用している市民の割合	%	(成り行き値) 目標値		(44.5) 45.5	(44.5) 46.0	(44.5) 46.5	(44.5) 47.0	(44.5) 48.0
			実績値	44.5	44.8				
C			(成り行き値) 目標値						
			実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)
A: 主催事業の内容や図書館活動を充実する等の多様な取り組みをとおして、学習に親しむ機会を増やすことで、目標値を、過去3か年の実績値の最高値を上回る、52%に設定した。
B: 蔵書整備の充実や図書館活動の広報及び啓発を行い、利用の機会提供に努めることで、平成27年度目標値を48.0%と設定した。

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題
A・今後も市民のニーズにあった事業を計画し市民への提供に努める。
B・蔵書整備の充実や図書館活動の広報および啓発を行ない、利用の機会提供に努める。

基本事業名		68 生涯学習団体の育成	基本事業担当課		生涯学習課
対象		取り組んでいる市民	意図		・学習に取り組む仲間ができる ・学習の指導者になる

成果指標名		単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A	生涯学習団体に参加している人の割合	%	(成り行き値) 目標値		(31.3) 33.5	(31.3) 34.6	(31.3) 35.7	(31.3) 36.8	(31.3) 38.0
			実績値	31.3	30.4				
B	学習の指導者として指導している人の割合	%	(成り行き値) 目標値		(3.2) 3.4	(3.2) 3.5	(3.2) 3.6	(3.2) 3.7	(3.2) 3.9
			実績値	3.2	1.1				
C			(成り行き値) 目標値						
			実績値						
D			(成り行き値) 目標値						
			実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)
A: 施策の成果指標である「目標、目的を持って実際に学習を行っている人の割合」の伸び率を参考に、余暇を利用してボランティア活動に参加する人が増える予想され、主催講座、自主講座などの周知を図り、団体参加を促すことで、平成27年度の目標値を38%に設定した。
B: 施策の成果指標である「目標、目的を持って実際に学習を行っている人の割合」の伸び率を参考に、人材を発掘し、今後計画されている人財バンクへの登録により、人材の活用を進めることで、平成27年度の目標値を3.9%に設定した。

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題
A・新しい生涯学習主催講座・自主講座への加入を推進し、目標達成を目指したい。
B・指導者の育成を今後も検討していく必要がある。

施策マネジメントシート3(23年度目標達成度評価)

基本事業名	69 生涯学習施設(環境)の整備	基本事業担当課	生涯学習課
対象	市民、市外からの通勤・通学者	意図	活動する場がある

成果指標名		単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A	学習に親しむ施設が整っていると 思う市民の割合	%	(成り行き値) 目標値		(57.0) 58.0	(57.0) 58.5	(57.0) 59.0	(57.0) 59.5	(57.0) 60.0
			実績値	57.0	60.0				
B			(成り行き値) 目標値						
			実績値						
C			(成り行き値) 目標値						
			実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A:成り行き値は、このままの状態を維持するとすれば、平成21年度の実績値の数値で推移すると考え、57. 0%に設定した。
目標値は、老朽化した施設の改修に取り組むことや、施設の周知を更に進めることで、成り行き値より微増すると考え、60%を目標値として設定した。

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題

快適に施設を利用できるよう、老朽化した施設の改修に取り組んだり、施設の周知を進めたことで、目標値に達したと考えられる。今後も施設の維持管理に努める。

基本事業名		基本事業担当課	
対象		意図	

成果指標名		単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A			(成り行き値) 目標値						
			実績値						
B			(成り行き値) 目標値						
			実績値						
C			(成り行き値) 目標値						
			実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題

基本事業名		基本事業担当課	
対象		意図	

成果指標名		単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A			(成り行き値) 目標値						
			実績値						
B			(成り行き値) 目標値						
			実績値						
C			(成り行き値) 目標値						
			実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

8 基本事業の23年度の振り返り(目標達成度評価)と25年度に向けての課題